

そこで兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によ って、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

11月29日
第5聖日
第3431号

「道徳的退廃」
(アドベント)

聖 言

道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行いを
むさぼるようになっていきます。しかし、あなたがたはキリストのことを、この
ようには学びませんでした。 エペソ4:19, 20

礼拝の恵み 第二二章

第九部 礼拝の場所

第二節 具体的な場所については、礼拝はどこでも、行われている。も、どんな場所でも、行われている。

こうした建物は少なくとも、一般の常識から言っ
て見苦しくない程度のものであって、そこで他人が
福音をきくに適した場所であるべきであろう。こう
して、礼拝する信者あるいは信者たちの有形的な位
置は、全くどうでもよいものである。また、礼拝者
のとの姿勢が、ひざまづいていようと、座っていよ
うと、立っていようと、その姿勢に何の意味もない。
信者は、ベッドに横たわっていても、仕事に行く途
中でも、電車や自動車に乗っていても、仕事をして
いても、寝室でひざまづいていても礼拝できる。礼
拝が神に対して持つ価値を決定するものは、個々の
信者あるいは信者たちの集会のささげる礼拝の、靈
的性質である。また一日のうちの時刻も、礼拝にと
って肝要ではない。昼間、あるいは夜のどの時刻で
も、平等に適している。どの時刻も等しくこの最高
の任務に適している。礼拝における重要な要素は、
どこという場所でも、いつという時間でも、どんな
という靈的なものなのである。クリスマスチャンは実際
には地上にあるが、しかも彼は、聖なる大胆さをも
って。天において礼拝するのである。この事実をわ
れら自身の生活の中で大いに体験したいものである。
(APギブス「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年一月二日午前一〇時 礼拝 山本

「石のような心」

「そこで私は、主にあつて言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなししい心で歩んでいるように歩んではなりません。彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れていきます。」(エペソ四ノ一七、一八)

祈り

昔は霜月と言われましたが、温暖化の影響で紅葉のないところもありません。神様の創造してくださった世界が全体が異常事態です。あと一ヶ月でクリスマスを迎えようとしているのに、これでは神様のお喜びになるクリスマスを迎えることができません。わたしはしの目を開かせてください。霊の目で神様を見させてください。霊の耳で神様の声を聞かせてください。

バートーベンが耳が聞こえなくなつてから「運命」を作ったのです。現代ほど情報が豊かなきはありません。しかし、現代ほど不信感が増しています。パリのテロの後、アメリカの空港で乗客がアラブ語を話していたため、乗務員が飛行機に乗るのを拒否しました。日本では多いのは防犯カメラと病院の診察券だけです。不信蔓延時代です。

「むなししい心」が彼らの特徴だったからである。「生きる神を生き、信仰を持って捉えることができなくなつた」ことにより、異教徒社会は同時に「真の意味での人間の存在目的や理想を見失つている。それゆえ、神を失つた人間は、無目的に、希望なく、無謀にさまようのである。ここで描写されていることが、クリスマスチャンでない人々すべてについてといえることだと暗示しているわけでないが、「これは神との関係を失つた全ての命が向かつている現実である。そして、クリスマスチャンの影響が少ない地域社会ではこのように墮落した生活が増幅されている。心と翻訳されているのは理性、思考能力を表します。つまり、異邦人の生き方とは、

目標を失つて生きることに。神とは異質的な生活、すなわち、神様の喜ぶことを憎む。テロで生後二〇ヶ月の男の子を残して最愛の妻を失つた夫が手記を書きました。「あなた方に憎しみの贈り物をあげない。私たち二人はどんな軍隊よりも強い」と言っています。これが神様のお考えなのです。しかし、神から離れた生き方は目には目、歯には歯の復讐の連鎖です。

もう一つは一九節にあるように道徳的に無感覚になるといふこととです。離婚と不倫はいつの時代にもあります。小説やドラマはそれを美化して、いかにも楽しいことのように面白く書いています。悪魔はこれらがいかにもたのしいこととして、わたしたちの五感を刺激してきます。あれをのみたい。あれをもちたい。しかし、不正な欲望を満足したのちに、空しさ、自分で自分の愚かさを責めるのです。その次には罪を犯しても道徳的無感覚になります。その証拠に罪の再犯率は初犯よりも高いのです。一円盗つたスリルが、一〇〇万円とつてもスリルは変わらないのです。罪がエスカレートします。二千年前のエペソの姿です。ギリシャ文化は退廃し、教会もその影響をもろに受けていました。クリスマスチャンはかしらなるキリストに達することを目標に生きるのです。そこからどう生きるかを原則を学ばねばなりません。規則でいきるのは、考えなくてもいいのである面では楽ですが、原則で生きるのは戦いがある。しかし、それが今を生きるための力です。

二〇一五年一月二五日午後七時 祈祷会 山本牧師

「イスラエルの領土」

「あなたがたと、あなたがたの間で子を生んだ。あなたがたの間の在留異国人とは、この地を自分たちの相続地として、くじで割り当てなければならぬ。あなたがたは彼をイスラエル人のうちに生まれた者と同じように扱わなければならぬ。彼らはイスラエルの部族の中にあつて、あなたがたといっしょに、くじで相続地の割り当てを受けなければならない。在留異国人には、その在

留している部族の中で、その相続地を与えなければならぬ。神である主の御告げ。」(エゼキエル四七ノ二二、二三)

これは、単にイスラエルの民だけではなく、在留異国人の相続地分配について暗示されている。このような措置は、聖を前向きでとらえるエゼキエルの思想の表示と考えられる恵みの箇所である。「神殿の聖なる仕事から完全に排除されている他国人も、土地の分配と言う俗事においては、イスラエルと全く同等に取り扱うことが規定されている。(レビ一六ノ二九、一七ノ一五、一九ノ三四、二四ノ一六、二二、民一五ノ二九、三〇)。このことは、かえって聖俗の区別の厳密さを物語るものである」とは当を得た見解である。「くじで割り当てなければならぬ」四五ノ一注解。具体的には、各々の部族は、その部族の中で在留異国人を優遇することが求められている。

使徒八ノ一三「ところが、この町にシモンという人がいた。彼は以前からこの町で魔術を行って、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと離していた。小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ。』」と言っていた。人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かせていたからである。しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。シモン自身も信じて、バプテスマを受け、いつもピリポについていた。そして、しるしとすばらしい奇蹟を行われるのを見て、驚いた。さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことは受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。彼らは主イエスの御名によつてバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下つておられなかつたからである。ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。使徒たちが手を置くと聖霊が与えられるのを見たシモンは、使徒たちのところに金を持ってきて、「私を手

を置いた者がだれでも聖霊を受けられるように、この権威を私にも下さい。』と言った。ペテロは彼に向かつて言った。「あなたの金は、あなたとともに滅びるがよい。あなたは金で神の賜物を手に入れようとおもっている」。恵みは平等に与えられるが、霊的な恵みは金で買えない。せつに求める者にだけ与えられる特別な恵みである。

二〇一六年新年聖会

- 元旦(金) 午前一〇時 元旦礼拝
- 二日(土) 新年過ぎ越し聖会
- 午前一〇時 聖餐式聖会 山本師
- 午後二時 足達師

二月の計画

- 三日(木) 納骨堂掃除 午前一〇時
- 四日(金) 楽しい祈り会 午後一時
- 六日(日) 役員会 礼拝後
- 一日(金) 神戸市民クリスマス 午後七時 神戸文化ホ
- 二〇日(日) クリスマス賛礼拝・コンサート 午前一一〜午後三時
- 二五日(金) クリスマス大日丘集会 午後一時

十二月の召天会員

- | | |
|--------------|----------------|
| 五日小仲一郎兄一九周年 | 七日魚住桂二兄四六周年 |
| 八日中畠きよ子姉七四周年 | 九日松田 勇夫兄四周年 |
| 十二日森あやゑ姉六三周年 | 十二日紺本清太郎兄 五三周年 |
| 十二日中瀬 清文兄六周年 | 十五日矢上栄一郎兄 三一周年 |
| 十八日砂川照代姉三三周年 | 十八日西川 省三兄 五〇周年 |
| 十九日片山忠蔵兄六九周年 | 二十四日三永隆生兄 二四周年 |
| 二四日佐藤秀姉 一七周年 | 二五日松田 洋子姉 四八周年 |
| 三一日片山繁兄四四周年 | 三一日木村 喜一兄 四二周年 |